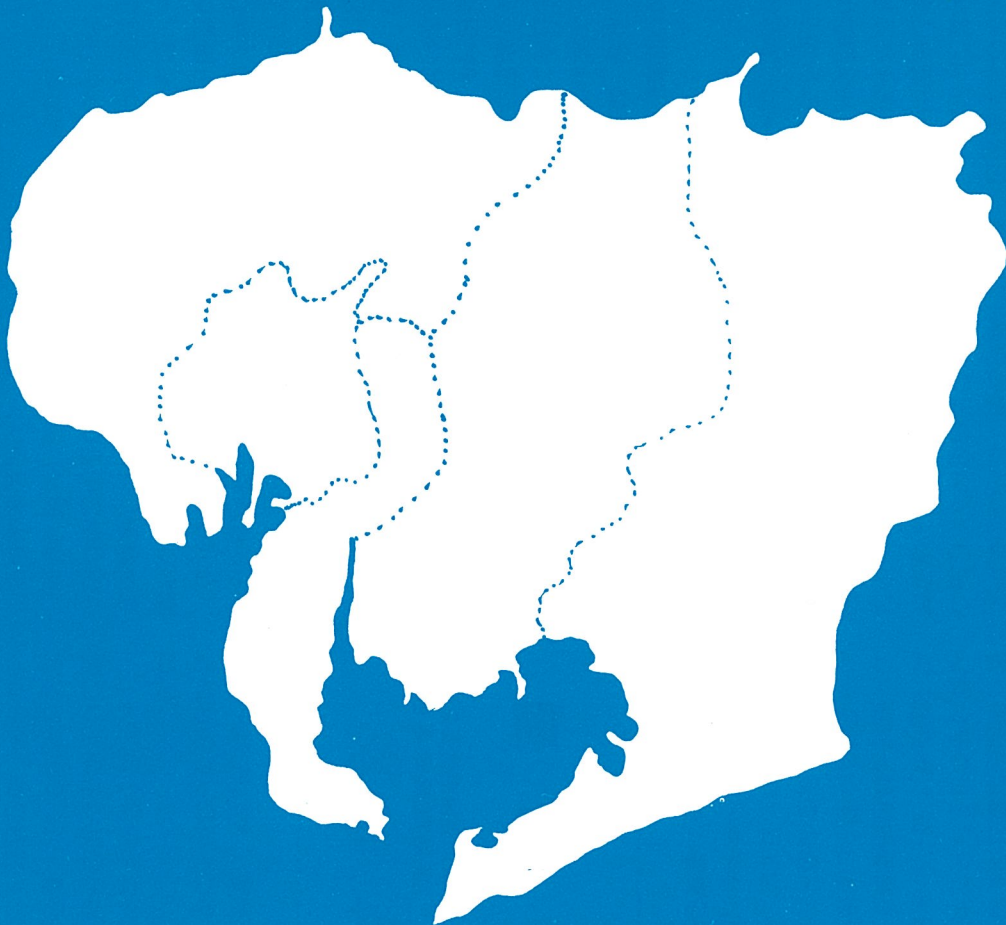


観の眼



—— 目 次 ——

巻頭言.....	1	私の人生と剣道.....	7
祝 顕彰.....	2	随想 めんきち.....	8
第32回愛知県春季少年剣道大会に優勝して	2	居合道審査規定の改正その他.....	9
愛知県剣道道場連盟の現状と課題.....	4	おめでとう 称号及び段位合格者.....	9
道場紹介 卯ノ里剣道同好会.....	4	連盟所在地	10
五十周年記念誌の編集と記念事業委員会の設置	5	平成十三年・十四年度役員	11
お薦めする本.....	5	事務局だより	12
会員の声 高齢化社会と剣道.....	6	編集後記	13
研修会参加の記.....	7		

第25号



財団法人

愛知県剣道連盟

この五月より、連盟の要職の方々から推挙のもとに愛知県剣道連盟の副会長を勤めさせて戴いております。

今日迄栄える伝統と実績を積み重ねてこられた愛知県剣道連盟の先輩諸氏の業績に心から敬意を表すると同時に、今後こうした方々からご指導・ご鞭撻を戴きながら、私も一生懸命連盟の発展に尽力していく所存です。

さて、時代は大きな転換期に在り、特にこの十年間は、政治・経済・教育社会：等々多くの分野で日本は混沌と閉塞感の真只中にあります。このような状態から早く脱却し、新しく迎えた二十一世紀のステージが、より明るい発展と希望の持てる時代でありたいとする思いは、今日の多くの日本国民の願いであると思えます。中でも教育（学校・家庭・社会を含めた）人づくり問題に関して、昨今マスコミ報道に多々見られる事件とそこに横たわる問題に、私は心痛している一人です。混乱し方向を見失いがちな今日の状況においては、一度原点に戻って、次のあるべき姿を構築していくのも一つの有効な方法と考えます。

全日本剣道連盟は、昭和五十一年に剣道の理念（大目的）として、次

のような内容を打出しました。「剣道とは、剣の理法（かたちあるもの、かたかないものを含めて、その正しい法則）の修練による人間形成の道である（人間として生まれながらにして備わっている立派な性質をみかきあげ、心を込めて努力していく）」

それと同時に「剣道の修練の心がまえ」として「剣道を正しく真剣に学ぶことにより（よい指導者につい

い本当の心を精いつばい出しきつて）常に自己の修養に努める（始めた時と同じようにいつも自分の向上に努力し続ける）。以つて国家社会を愛して広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである」と述べています。

これは、教育全般の目的として考えられています。今日の青少年にまつわる懸念される問題は、剣道のこの理念の



巻頭言

愛知県剣道連盟副会長
名古屋剣道連盟会長

小栗七生

て、自分で精いつばい努力する）、心身を錬磨（きたえ、みがく）し、旺盛なる（元氣さかんな）氣力を養い、剣道の特性を通じて（剣道という名でよばれているいろいろなことがらを通じて）礼節（礼儀と節度）を尊び、信義（人との約束をやぶらない、信じている人をつらぎらない）を重んじ、誠を尽くして（うそでな

追求活動によつて、解決への一助となると私はかねてより考えておりました。

一方、あらゆる分野で国際化が進展している中で大切な点は、国際化時代にふさわしい人材の育成が挙げられます。真の国際人は、外国語が話せるとか、外国人との関わりのある仕事をこなすということのみでは

無く、自国の歴史と伝統を背景にして培われてきた日本の特性をきちつと外国に情報発信できるものを身につけているか否かであると考えます。

剣道を生み出した歴史的な経緯とその人間形成を含めて目指すところは、日本固有の文化そのものであるといえます。日本の伝統文化としての剣道の普及、そして剣道愛好者の裾野を広げることも大切な点であると考えます。

青少年の育成に大きな役割を果たす、女性の剣道愛好者の拡大には大変心強いものがあります。人生経験と年齢を重ねるにしたがつて、剣の風格に磨きかけられる剣道は、女性が母親の立場にたつても継続できる魅力を備えております。こうした視点からも女性への剣道の普及は、大切な仕事の分野と感じています。

人材の育成こそが、二十一世紀の日本の健全な発展を約束する礎であると信じる点から、私は剣道を通じて、その理念の具現化を図っていく中でその一翼の役割を担うことの使用命を強く感じるところです。

今後とも、引き続き皆様方のご支援を戴き微力ながら連盟の仕事にたずさわっていく所存です。

祝 頭 彰

全剣連では、剣道の普及発展に努力し功勞のあつた方々に報いるため功勞賞、有功賞を設けてその功績をたたえ贈呈しております。

当県では平成十二年度（第六回）は、功勞賞には該当者がなく有功賞に左記の二名の先生方が受賞されました。

有功賞は、地域または特定の領域において剣道の普及発展のため長年に亘り功績があり徳操高潔な方。

- 一、深谷文二先生（八〇才）
大府市吉田町律粉一五
尾南地区剣道連盟参与

- 二、小笠原和雄先生（八十一才）
名古屋市中区千代田
五十二十一―二十三
元名古屋市剣道連盟理事



南剣道連盟の一般稽古会の為に休みとなつています。現在会員は小学生三十四名、中学生若干と指導者十五名です。練習内容は、初心者、初級、上級と分けて前半は基本中心稽古とし、後半指導者の増えた頃に先生が元立ちとなつて地稽古、打ち込み稽古、切り返しと続いて終わりになります。八時十五分に礼を終えてその後、元立ちを大木先生、平原先生方を中心として、子供も参加しての一般稽古となり、この頃には中、高校生の参加もあつて活気ある稽古となっています。誰でも稽古参加大歓迎です。どうぞお出掛け下さい。尚、金曜日の方が先生方の出席がだんぜん多いのでよろしくお願ひします。今後小学生が高校、大学生となつても稽古に来なくなる様な教室を目ざし、指導者一同頑張つていきます。入会等については、そのつど第二金曜日の指導者にて決めていきます。最後に年に一度、指導者研修出稽古会を一泊で行つていきますので、どこか良い所がありましたら是非御紹介下さい。



第32回愛知県春季少年剣道大会に優勝して

竹内厚雄

この度、三月十八日に稲永スポーツセンターにて行われた県大会において、本場にすべての運に恵まれて、思いもよらぬ優勝をする事が出来驚きと共に大変喜んでいきます。又、やれば出来るという事を改めて感じ、子供、指導者共に毎日の稽古に励んでいます。

今回の優勝を振り返つて見れば、幾つかの好条件が重なつた結果であつたと思ひます。新知剣道教室が石川兼晴先生、野島桃市先生、竹内の指導のもと出発をして、今年で三〇年となり、尾南地区の仲間と、永年交流をして来た県内外の友好団体に声をかけて、十一月三十日に知多中学校体育館において三十周年記念大会を開催しました。県外からも多数御参加を頂き、盛大に行なう事が出来ました。当大会に向けての準備と、せめて三位入賞を目指し、長期の強化練習を行ない、子供、親、指導者と三位一体となつて頑張りました。ところが大会直前に選手一名が骨折をし、大きな打撃でしたが、い

ざ蓋を開けてみれば、その補欠の素晴らしい面での大活躍に引つ張られ、よもやの優勝を高学年が成しとげたのです。何よりも良かった事は彼に自信が出来、やる気になった事です。それにより七名の差が全て無くなり、選手選考に困る程に子供達が競い合う激しい毎日の稽古となつたのが一番でした。まず、その結果として尾南地区大会での約二十年ぶりの優勝でした。

次に近年はOBが指導者として戻り、又、その子供達も入門をして、教室が活気づき、指導も杉江先生を中心に若い先生にとバトンタッチされた事です。つけ加えて、二年前の全国青年大会で入賞した先生方の活躍も子供達に大いに刺激になつたと思ひます。

もう一つには前年は六年生が一人もいなかった為に、二年間に渡つて選手経験が出来た事だと思ひます。ずば抜けた選手のいないチームです。一試合たりとも安心して観る事の出来る試合は無く、うまくお



互いにカバーし合いながら、全員で勝ち取つた団体優勝でした。又、そんな勝ち方を本場に良かったと思ひます。日々の活動は開設以来、知多市の新知小学校体育館において毎週月・金の二回、七時より九時迄行なっています。但し祭日と第一金曜日は尾

愛知県剣道道場連盟の現状と課題

全国剣道道場連盟評議員
愛知県剣道道場連盟

内藤 信 臣

現状（剣道道場連盟の調査による）

一九九三年に行われた「青年の剣道に対する意識調査」（高校生、大学生）では、六七・二％の者が小学校で剣道を始めていたが、その結果「剣道漬けをいやがり、意欲の低下が見られ、燃え尽き症候群になつてゐるのではないかと思われるほどである」と指摘した。同様に一九九五年に行われた「小・中学生の剣道観」では「剣道の普及に関する意識」の中で、国際化については強く肯定し、剣道仲間を増やしていくことにも肯定的であるが、不可思議と思えるのは、「やつていない人にすすめたい」と思つている中学生は半数程度しかないという結果がでている。

その理由の一つとして考えられるのは、剣道部に入つてしまうと、自分だけのことに精一杯で、他の人を誘うような余裕もなくなる。それは、毎日の稽古時間が二時間前後、それに加える事、他の習い事に六〇％以上の部員が通つている事で、自由時

間を無くすことになる。

「自分と友人がともに成長するのが楽しみと思える心を育てる」ことの環境作りには、大人が努力すべきである。

この中学校段階では「剣道と勉強の両立についての不安感を持つてゐる」として「何を目標として稽古に励ませればよいのか」ということである。中学校の後、高校では？大学では？社会人では？あるいは一〇代・二〇代・三〇代・それ以上高齢者では？このように生涯剣道の視点に立つて、その時期・その年齢に応じた稽古のあり方、考え方について、明確な指針を与えることが指導者の役割であることを述べている。

調査結果の特徴の一つとして、剣道以外の関心は高いが、伝統的な剣道のスタイルを維持することに肯定的であり、意欲的に剣道に取り組んでいる者が多いことである。剣道について「厳しい」「厳粛」といふ伝統的とも思える剣道観を保持しながら、他のスポーツ風注目さ

れることを期待していると思われる。以上のような現状調査結果を拝見しますと、この少子化時代による剣道人口は、一九九三年の調査では著しい減少傾向である。バブル時期崩壊（一九九六・七年）を過ぎて、政治・社会・経済不安時期（一九九八年、二〇〇一年）低迷安定時期に入ったのが現状であり、剣道人口も人格形成の為の不可欠な品位向上の教育に専念する安定時期であり、剣道を学ぶ者としては他の道を学ぶ同志の方々をも見習い、教えて頂き、剣の道・人の道を学ぶ好機と思われるのが素直な私の気持ちであります。

今後の課題として

「その時の要をなさねば武にあらざ」（私の師曰く）の如く「人の道要をなさねば武にあらざ」。「その時の要をなさねば（母・師・夫・妻・社長・社員・学生・僕・私・自分など）にあらず」と置き換えて、考える。自分自身を見つめる。「生きる目的」「生かされている自分」「必要

とされている自分の心遣い」このよ
うな事を思い剣道を学び、指導にあ
たる方々の一人一人が「剣道の徳目
である」「心を磨くこと」「身体を鍛
練すること」「技術を修得すること」
により「礼」を学び「儀」を重んじ
「礼儀作法」を修得することにより、
古来日本儀式から伝えられていて、
現代に合った「躰」を身に付けられ、
心には「ゆとり」と「徳」が備わり、
スポーツのように「同じ環境」「同
じルール」の上で楽しめる事をもブ
ラス出来るのが剣道の良さである事
を伝える事です。

- 一、武道とスポーツの相違点
- 二、武術と武道の相違点
- 三、武道の内の剣道とは
- 四、躰・礼儀・礼儀作法とは
- 五、武道・政治・宗教・経済の一致
- 六、剣道を修得する事により達成が
できるもの

- イ 心に「ゆとり」ができ
- ロ 人柄が「品位向上」し
心身とも鍛えられる
- ハ 心が「素直」になり
「頭が良くなる」
- ニ 経済的にゆとりができ
生活上が計られる
- ホ 人と人（または自然）にや

剣道の面白さ、楽しさ、難しさなど
を体験する催しですが、この対戦に
よって保護者の剣道に対する理解の
深まりと、良好な親子関係の絆が築
かれる効果大と思われまます。
また、岐阜県多治見市に所在する
市之倉剣道少年団育成会との錬成交
流会は、現在も続いており、県外を
越えての「交剣知愛」が活かされて
います。

- 会員募集広報活動として
 - 町の広報誌への掲載
 - 同好会が作成した入会募集チ
ランの地域回覧板への折り込み
 - 地区コミュニティ発行紙への
活動状況掲載
 - 小学校主催の「卯の里祭り」
での文化体験コーナーによる剣
道体験学習
 - 中学校主催の趣味・スポーツ
カルチャー講座での剣道体験学
習
 - 中学校のボランテニア授業の
一環として毎週金曜日の剣道指
導
- 等を行っています。同好会の指導員
は、文部省の「指導者」制度により
社会体育指導員の資格を有しており
会員の指導者が資格取得を目指して
います。

さしくなれて、戦うことな
く毎日が楽しく「共存・共
生・共栄」することができ
る

以上、記述申し上げた事柄を、剣
道を学ぶ人々に解説し、理解を頂き、
実行すれば、少子化時代に入ったが
故に、一人の生き方、命の重さが尚
一層大切な時代である事が必然的に
解り、二十一世紀に必要な人材を育
成するための課題であると考えます。
子供に何をやらせるのかではなく、
楽しく、やさしく、厳しく、愛情を
充分に与え、その結果大人が何を
見せ、ともに行動するかである。
最後までお読み頂いた諸先生方、
皆様方に感謝を申し上げます、私の意を
お汲み取りいただければ幸いと存じ
上げます。

道場紹介

尾南地区
卯ノ里剣道同好会
指導員 久野 廣

卯ノ里剣道同好会は、春から初夏
にかけて白く色鮮やかな町の花「ウ
ノハナ」が咲き誇る知多半島東浦町
西部丘陵地に位置する西部中学校の
武道場で活動しています。



これらの体験学習を通して剣道へ
の魅力を感じ、剣道を志す少年も少
なくありません。

このほか、中日新聞みんなのスポー
ツ欄の中の「いい汗を流そう仲間た
ち」への登載や地域で放映されてい
るケーブルテレビの活動状況の紹介
を行いました。
日本古来の導く輝かしい伝統ある
武道文化を後世に引き継ぎ、振興普
及、繁栄と青少年の健全育成を担う
指導者は、青少年に情熱と愛情をもつ
て接し、上下を問わず「自彊不息」

十八年前、地域住民から日本武道
の伝統文化である剣道を現代の青少
年に継承し、少年剣道スポーツの振
興をとの要望が起り、公民館のホー
ルで指導員二名と小学生十数人によ
るスポーツ少年団剣道教室が誕生し
ました。この地域は、古くから別名
「卯の花の里」と呼ばれていたこと
にちなみ、「卯ノ里剣道同好会」と
名付けられました。

剣道指導を通じて青少年の健全育
成の効果も表われ、剣道を学ぶ会員
も徐々に増え、現在、指導員九人と
小・中・高校生の会員五十数名が活
発に鍛錬しています。
同好会の象徴である団旗を「勇気」
とし、「何事も恐れぬ強い心」「優
しい心」「清らかで正しさを貫き通
す強靱な精神力」を養うことを目標
としています。

発足当時、十数人であった少年剣
士の団体でしたが、健全育成活動が
地域に親しまれ、浸透していき、ス
ポーツ行政関係機関からも評価を受
け、剣道を学ぶ少年が増加するに至
りました。
剣道修練の体現過程である段級審
査にあつては、小学校・中学校及び
高校を卒業するまでの間にそれぞれ
の最高段級位を取得する剣士を輩出

を肝に銘じ精進することが将来にわ
たつて課せられた任務ではないかと
剣道を愛する同好会の指導者として
深く感じています。

五十周年記念誌の編集と記念事業委員会の設置

記念誌の編集委員会及び編集計
画については、先回紹介致しまし
たとおりでございますが、編集委
員長は引続き中村薫氏が継続され
ます。新たに記念事業委員会が設
置され、委員は次の方が決まりま
した。北村豊（事業委員長）中村

お薦めする本

岡村忠典 著
俣塚同時
私の教育と剣道

二五八頁
発行 全国・東京都高等学校
体育連盟剣道部
非売品

著者は全国高等学校体育連盟剣
道部長として、学校剣道、とりわ
け高等学校剣道の充実と向上を目
指してリーダーシップをとってこ
られました。

するまでになり、各種大会において
も好成绩を取める様になりました。
修練によって自己の技量評価を取
得することは、指導員、保護者の少
年剣士に対する取組姿勢の熱意の成
果であり、少年自らの切磋琢磨によ
る賜物であると思います。

少子化の時代にあつて、サッカー、
野球、その他のスポーツ愛好へ移行
傾向が見受けられ、少年や周りの社
会的現象によって剣道離れ、学校体
育活動における剣道クラブ活動の低
下などにより、少年剣道人口の減少
の兆しが表われている今日、各教室
にあつては、様々な取り組みが図ら
れていることと思われまますが、「卯
ノ里剣道同好会」の一例を述べてみ
ます。

練習日は、木曜日、午後七時から
九時と日曜日、午後六時三〇分から
九時までの週二回行っていますが、
少年にとっては、練習ばかりでなく
楽しく遊びを取り入れたゲームや、
余暇を活用しての四季に応じた保護
者自由参加によるレクリエーションを
行っています。
親子参加のレクリエーションの中で
年末のクリスマス会では、親子対抗
紅白試合を行います。保護者が自分
の子供と、子供が親と対戦してみ



薫、水野八郎、深田正夫、富田孝
夫、勝股寿彦、竹味由登の諸氏で
新たに新理事長山本重夫氏を迎え
て、平成十四年十二月に行われる
記念事業に取組んでいるのが現状
です。

東京都立竹台高等学校校長退職を
機に、三十八年間に亘る教職生活
の中で、生徒や保護者等に、また
剣道関係者に話され、書かれた事
をまとめられたのが本書でありま
す。
第一部教育編（三十七題）第二
部剣道編（二十四題）の二部構成
となっております。

著者が、剣道を通して築かれた
教育観を具体的に実践してこられ
たこのことは、本書を読まれたな
ら、必ず読者の剣道修業や子ども
たちへの指導に役立つものと思
います。
（中川）

会員の声

高齢化社会と剣道

一ノ瀬 卓也

一、はじめに

二十一世紀になり七十四才を迎えました。高年になって習い覚えた剣道を楽しむことで、充実した余生を送りたいと思っています。私の剣道歴はいたって浅く、戦中の中学時代に三年程やっただけで、社会に出ての四十年間は、典型的な営業畑の転勤族サラリーマンで、およそ剣道と無縁の生活でした。そうした中にも、不思議に、剣道に対する郷愁は頭から離れず、六十三才になり福井県の敦賀で竹刀を握りました。当初は健康維持と、老後の趣味の一環にしよう、気軽な気持ちでしたが、中学時代の剣道が通用する筈もなく、基本の一から指導を受け稽古を始めました。最初は身体が剣道に馴染まず、直ぐに息が上がり、苦しい思いもしましたが、習うにあたっては、“年に甘えるな”と云う事を戒めとして、稽古に励んできました。三段、四段と昇段を重ねるうちに面白くなって、昨年五段を頂き今ではすっかり剣道に嵌ってしまった思いです。腕はま

だまだ未熟で、方々の道場へ伺うと、何れを向いても高段者ばかりで、気後れする事もありますが、永年鍛練され、熟達された先生方の訓えを学

びつつ、へたばらずに頑張っています。又道場には比較的に高齢者の方も多く、稽古の指導や助言を頂きながら、親しく交際頂けるのも楽しいものです。剣道が高齢者にも適合した特性を持ったスポーツであるとはよく云われる事ですが、私の例を見ても頷けることで、更なる高齢者の方の参加により、一層の剣道の興隆を願うものです。これから人生八十歳と云われる超高齢化の時代を迎えるに至り、高齢者に対する社会制度に、様々な問題が問われている今、社会に迷惑をかけず、自分の健康は自分で守る様心掛けねばなりません。その為にも、生涯スポーツと云われる剣道を通じ、心豊かに生き甲斐ある人生を送り度いと念願しています。

段、森部五段、と云う陣容で試合に臨みましたが、検討空しく予選を勝ち上る事が出来ませんでした。試合の詳細は省きますが、高知・和歌山の両戦とも、勝負が大將戦に持ち込まれました。高知とは引き分け、和歌山では面を一本取りながら勝負に負け、チーム敗退となり面目ない次第です。囲碁の世界で「勝ちに不思議な勝ちもあるも、負けに不思議の負け無し」と云う言葉がありますが、剣道にもあてはまるでしょう。たとえ技量が相手に劣っていても、相手に勝る気力・集中力・隙を捉える観の眼・積極性・不動心等々で戦えば、運が味方する事もあるでしょう。実際は、冷静さを欠き、訓えの何れも守れず、実力不足と相俟って「不思議な勝ち」を得る事は出来ませんでした。反省しきりです。然しこの様な大試合に出場出来、得難い経験をさせて頂いた事は、私にとっては生涯忘れ難い事柄の出来事となりました。今大会の出場にあたり、市当局、市剣道連盟には種々お世話になりました。感激しています。又大阪ドーム総合会場では、オリンピックさながらの入場行進・盛大なセレモニーと見事なイベント、親切な交通アクセスサービスマン等々、更に羽曳野市の

前夜祭では大変な歓迎と持て成しを受け感激致しました。

三、少年剣士の指導

私は守山区スポーツ少年団で、主に毎年入団して来る初心者を受け持つ指導の一翼を担っています。教職にないものが、剣道と云う専門分野の事とは云え、心身ともに発育過程の子供達を、健全な青少年の育成を目指して指導する事は、大変責任の重い事ですが、誠心、根気よく努力していく事が大切だと思っています。少子化の折、剣道を志す子供達は大変貴重と云うべきで、指導にあたっては子供達が、いかにのびのびと、興味を持つと楽しく剣道をしていくかを念頭に置きながら、技量向上のみを急がず、基本中心の正しい剣道を体得出来る様、心掛けています。真面目に稽古を続けている子供達の中に、ふとした折、思わぬ上達を見る事があり、子供の成長の神秘さを感じられ「おのこ三日見れば刮目す」と云う言葉を如実に見る思いで、そんな時指導者冥利を感じます。子供達を指導しながら一緒に剣道をすることで、自身の勉強にもなり、技量向上にも役立ち、楽しくやっています。

会員の声

名古屋市剣道連盟

研修会参加の記

平成十二年
九月十六、十七日

川原田 道

研修会出発当日は生憎雨天となったが、天気に左右される会でもなく剣の道に結ばれた同志の打解けた雰囲気の中でバスが出発すると、すぐさま腹が減っては何とやらというところで古風な大きなそば亭で盛沢山の料理を軽く平らげ、嗜む人は百薬の長をも忘れず、流石は剣豪の面々の

の場である「フォレストパル大滝塾を訪ね、塾長高山修氏の懇切な案内で塾の設備を限なく見学の上、同塾長より塾の設立の経緯、現状、将来の展望、問題点等熱のこもった説明を聴き、一同現今の青少年問題を考え感慨深いものがあったことと思う。又目下学習中の青少年の中に剣道を学ぶ少年が居り我々が交々声を掛けてやることも有った。

公民館では地元の剣士も交えての合同稽古を一時間程行ったが、左程長い時間とは感じなかったのは小生が怠けたのかそれとも相手の人が手心を加えて呉れたのか（又は両方ともだったのか）分からぬが、山気清澄な道場のせいも有ったかと思う。一同爽快な稽古により俗念俗塵を払うことができた。

宿に帰りひと風呂浴びての夕食では楽しく会食談大いに懇親を深めた。あとは合同稽古での疲れと腹は突つ張る眼はたるむということ

会員の声

私の人生と剣道

増田 健太郎

朝の宿から見る重なる山々と峯や谿から湧く雲と静かに降る細雨との織りなす墨絵ながらの風景は、胸の奥まで洗われる眺めで復た来てみたいと思うことであつた。

朝食を済ませて帰途についた。途中、山奥の小学校の狭い校庭での雨の中の運動会を眺め乍ら木曾川沿いの街道に下り寝覚の床で小休止、馬籠ではそば料亭で昼食をとり、各自

散策やら土産物の物色などを済ませて出発、名古屋迄は一同うとうとしていたひとときであつた。

午後八時近く出発点の名古屋駅裏に到着、又の機会を約し二日間の思い出を家苞の一つともして解散した。尚末尾乍ら王滝村の方々の心のこもった御世話により、終始楽しく有益な時を過ごせた事に対し深謝申し上げます。

されました。

今回（財）愛知県剣道連盟広報委員長より、県剣道連盟報誌「観の眼」へ「私の人生と剣道」と題して投稿するようにとご依頼があり、若輩ながらペンを取らせていただいた次第です。今回このような機会に恵まれ、あらためて自分の人生と剣道との関わりを振り返ってみましたところ、大切な人々との出会いが多々あつたことが自分の人生を豊かにしたように思います。稽古場で、またその後の酒の席にて、出会った方々の何気ないお話や行動が自分の心を何度も打つたこと、また求める姿に深い感動と尊敬の念を持ったことに気付か

現在自分が剣道をしている要因となつている気がします。坂柳先生から中心をはずさないことを教えていただきました。中心をはずさなければ剣先は喉につく、そうすれば打たれないという教へは子供ながら実に明快で納得のいくものでした。中学校、高等学校時代は北村滋敏先生に教へを受けました。北村先生は個性を大切にされた伸び伸び剣道を教へていただき、現在自分が剣道にのめり込むきっかけをつくっていただいたように思います。大学時代には光永勉先生、田中弘先生に教へを受けました。光永、田中両先生には、卒



業後に会おう春風館館長上北先生とともに、自分の自由時間をさいてでも少年指導、試合審判、各剣連役員として剣道界の屋台骨を支えて行く姿に頭が下がる思いがいたしました。大学を卒業すると仕事も忙しく、なかなか稽古時間がとれないなか、稽古のできる時間ができればどこへでも稽古に出掛けるようになりまし。そのため出会う方の数が増えた気がいたします。東良美先生には美しい基本にのつとつた剣道に深い感動を憶え、また真似ようにもなかなか出来ない自分に基本修得の大変さを教えられたように思いました。「道険しい」思いを深くしていると、あるいはなんとなくホッとするような心暖まる、なごませるそんな笑顔の持ち主である方々に出会えたことも貴重でした。岐阜明珠館館長磯貝光禮先生、長良武司先生、米田種司先生、伊左地繁先生といった方々には、その笑顔にやわらかい心のあり方の大切さを教えていただいた気がします。ある時米田先生の道場へ稽古にうかがい、稽古したいと挨拶したところ、「これはこれによく来て下さいました。どうぞどうぞ」とはち切れんばかりの笑顔で迎えていただきました。このような出

迎えをうけた事は初めてで、大変うれしく感じました。磯貝先生にはマラソンのQちゃんこと高橋尚子選手の恩師、小出監督と同じ香りを感じます。出来ればこんなオジサンになりたいものだと感じさせました。逆に強気の大切さを教えていただいた事もありました。名城館館長戸田治夫先生には、共に稽古環境になかなか恵まれないながらも、常に進歩前進していこうという強い心と姿勢を学びました。これは自分の仕事にも直結する事ゆえ、日々自分に言いにかけているつもりです。思いつくままに書きつづつてきました。今更ながらに自分が様々な方々の影響を受けていることに気が付かされます。これからも、このような方々との時間を大切に、また新たにどんなか方と出会えるのか期待に胸を膨らませ、今後とも楽しく正しく剣道にかかわっていきたく思います。いつの日か道場で私の姿を見かけたら、気軽に声をかけて下さい。老若男女問わず他人からはとつきにくいように見えるらしいのですが、勇気を持って声をかけて下さったら大変うれしく思います。

居合道審査規定の改正その他

居合道委員長 松岡良高

愛知県の居合道も広める時代から高める時代に成ってきました。秋田範士・伊藤範士・大澤教士・二村教士の先生方が愛知県剣道連盟居合道委員を勇退される事に成りました。先生方は現在の愛知県の居合の基盤を作つて戴き、道を開いて下さいました、深く感謝致します。平成十三年度から委員も小林 博・村田和夫・瀧 順一・秋田松治・松下明房・大岩祐司・松岡良高に成りました。先輩各位のご指導を賜りながら委員一同力を合わせて精一杯頑張りますので今後とも宜しくご指導お願い致します。

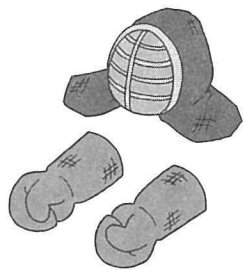
加されましたので、審査規定(要領)の文章の中で一〇十本とあるのを十本に変更します。居合道委員会が主催して各地区に指導者を派遣する事に成りました。これは、中央講習を受講した指導者が県下に伝達し愛知県の居合を高めるのが目的です。ご希望の地区は、委員まで申し出て下さい。指導者の食費・交通費は委員会で見積りしますので会場等の準備だけして戴ければ結構です。第一回は、尾南地区：半田市青山記念武道館で五月十二日に開催します。愛知県剣道連盟会員であれば県下どの地区からも参加自由です。愛知県剣道連盟合同稽古会にも多数ご参加下さい。

居合道審査規定の改正については、級審査規定の審査要領で「高校生以下の審査は木刀で行う」とありましたが、「模擬刀で行う」に変更します。これは、安全性と管理面から木刀となつていましたが、指導者も確立され刀の取り扱いも指導されて来

ましたので四月七日の理事会で承認されました。尚、全日本剣道連盟居合が二本追

めんきち

「好きこそ物の上手なれ」のことわざのとおり何事も好きなことについては、誰もが一生懸命努力する。好きだからやれる。目標に向かって頑張るから上手になれる。私が若い頃は、「めんきち」と云った。最近では、「のめりこむ」「超好き」「メツチャ好き」とか「はまる」とかの言葉に変わつてきている。言葉が短く区切って話すことが流行のようである。「めんきち」は勿論、剣道大好き人間のことである。あの人は「めんきち」だもん！自分が上達したい強く



なつて選手になりたい、又段を取得したいの気持ちが強くと、他人の何倍も竹刀を振り、所かまわず、出稽古に行き、目上先輩に一本でも多く稽古をお願いしたものである。

戦中戦後「めんきち」の先生方は、すばらしい剣歴をもち高齢になつても健全で後輩の指導にあたつてみえる。犯罪の多い不安定な社会情勢の中、剣道と云う日本古来の伝統文化に打込み、青少年も「めんきち」になり立派な人間になるべく努力して欲しいものである。と思うのは私だけだろうか。

(弘)



おめでとう

平成十二年度段位・称号合格者

- | | |
|---|--|
| <p>剣道七段 (五月三日 京都)</p> <p>西本吉見(40) 正田哲之(41)</p> <p>森 康次(43) 松永典章(43)</p> <p>清水淳三(47) 野田信幸(47)</p> <p>長沢賢治(47) 斎藤 勉(50)</p> <p>仲島政之(56) 後藤英壽(58)</p> <p>勝野峯雄(60) 菅原 實(62)</p> <p>葛谷昌保(62) 重松慶治(63)</p> | <p>高木由人(44) 磨井富由(44)</p> <p>山本和秀(44) 佐金栄一(47)</p> <p>秋山一之(48) 加藤勝久(56)</p> <p>長江久仁夫(58) 上村公子(47)</p> |
| <p>剣道五段 (五月三日 名総体)</p> <p>安藤戒牛(26) 高橋至(26) 西村敏宏</p> <p>(28) 田添竜男(30) 村上隆(32) 祖父</p> <p>江嘉人(35) 前田幸治(35) 芳賀慎吾</p> <p>(36) 太田正彦(40) 塚下和夫(46) 中</p> <p>村秀和(50) 鈴木秀樹(50) 佐瀨民男</p> <p>(50) 辻宗由(51) 左藤文夫(51) 高木</p> <p>正樹(55) 米崎秀人(56) 久野豊光(56)</p> <p>原田常次(61) 一ノ瀬卓也(72) 笹井</p> <p>美幸(37) 下條由紀江(56) 長谷川美</p> <p>智子(59)</p> | <p>谷口慶裕(26) 坂井英司(26) 左瀧良</p> <p>雄(27) 山下浩城(27) 畔柳太一(27)</p> <p>齋藤政彦(31) 大角隆二(33) 岡崎伸</p> <p>彦(33) 宮内賢一(35) 船戸栄治(39)</p> <p>斉藤吉郎(42) 鈴木洋一(42) 村瀬美</p> <p>貴男(45) 菅原聡(46) 田中学(48) 神</p> <p>戸信夫(49) 鈴木康三(50) 高須章(54)</p> <p>森満治(56) 神谷秀治(59) 柳原一仁</p> <p>(62) 田淵聖子(29)</p> |
| <p>剣道六段 (五月十四日 枇杷島)</p> <p>中村友治(33) 近藤秀明(35)</p> <p>平井宣青(37) 星野輝人(39)</p> <p>深津修一(41) 北口正樹(42)</p> | <p>剣道六段 (八月二十七日 福岡)</p> <p>中村秀樹(33) 山田次男(52)</p> |
| <p>剣道七段 (八月二十日 福島)</p> <p>野村英幸(37)</p> | <p>剣道七段 (八月二十七日 新潟)</p> <p>小久保英雄(59) 平島公(66)</p> |



居合道五段 (十月一日 県武道館)
 一柳広治(44) 服部光雄(49) 村瀬宣治(50) 塚本康豊(56) 水谷徳正(77) 石田理永(30)

周東繁夫(72)

剣道八段 (十一月二十九日 東京)
 島山隆吉(48) 渡邊 香(49) 祝 要司(51)

剣道五段 (十一月五日 蒲郡)

米林尚希(27) 伊藤仁宣(28) 安藤義正(29) 高橋博之(29) 伊藤国博(30) 野田憲司(31) 阿藤友浩(33) 芝山博樹(34) 蒲原聡(37) 原田俊浩(40) 都築透(40) 吉田敏昭(40) 近藤裕(43) 岡崎真浩(45) 上五十二(51) 大喜戸一夫(64) 田財武男(65)

剣道教士 (十一月三十日 東京)

牛田隆男(53)

剣道錬士 (十一月三十日 東京)

島 賢児(31) 下山博之(32) 土井宏幸(40) 川端武司(44) 道山弘康(45) 澤田善広(45) 高田将之(46) 今泉 弘(46) 松田和美(49) 尾出敏博(51) 石川 力(55) 仁枝永次(59) 亀井幸雄(61) 伊佐地繁(62) 中池喜三郎(67) 重松ミチ子(62)

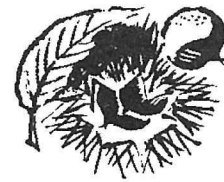
居合道錬士 (十一月三十日 東京)
 中江 武(39) 後藤寅雄(74) 井関朝子(59)

居合道六段 (十一月十八日 東京)
 宮野喜好(45) 伊藤邦彦(67) 松下美智子(53)

居合道六段 (十一月二十三日 愛知)
 関屋猛久(29) 小嶋啓文(39) 廣國憲治(45) 吉原辰美(48) 鈴木博紀(53) 朝倉五郎(70)

居合道六段 (十一月二十七日 東京)
 菊池雅樹(32)

剣道七段 (十一月二十八日 東京)
 上松浩美(38) 道山弘康(45) 深谷昌司(45) 鈴木 睦(47) 加藤秀夫(49) 牧野三四二(64)



平成十三年・十四年度 役員

谷 鏡吉郎 副会長
 森 田 七 生 力
 小 栗 修 作
 濱 田 幸 雄
 亀 井 幸 雄
 松 本 武 雄
 杉 山 孝 雄
 内 藤 正 之 助
 山 田 健 一 寛
 鈴 木 利 雄
 近 藤 利 雄
 小 原 正 亮
 池 内 秀 夫
 中 村 薫 夫
 翁 長 明
 秋 田 森 治
 伊 藤 宗 太 郎
 廣 瀬 弘 之
 加 藤 文 雄
 水 野 文 雄
 鈴 木 守 治
 相 談 役

参 与
 牧 野 信 登
 加 藤 雄 登
 福 田 俊 雄
 太 田 吉 郎
 水 谷 徳 正
 仲 山 納 正
 近 藤 勁 助
 大 嶽 将 文
 山 本 重 夫
 青 山 定 夫
 深 田 正 夫
 北 村 正 夫
 林 村 邦 夫
 富 田 孝 夫
 寺 澤 将 美
 丸 山 清 司
 伊 藤 一 彦
 細 川 昌 彦
 渡 辺 利 次
 青 山 幸 光

監 事
 清 水 和 郎
 野 中 八 郎
 水 野 弘 郎
 田 中 弘 夫
 牧 野 賢 郎
 細 田 滋 郎
 北 村 高 敏
 松 岡 良 高
 山 岡 昌 宏
 置 田 修 己
 白 井 孝 一
 市 川 武 利
 永 田 操 久
 井 上 一 厚
 塩 野 慶 男
 岡 田 慶 司
 米 田 種 邦
 新 田 美 利
 安 部 秀 利

評 議 員
 清 水 和 郎
 野 中 八 郎
 水 野 弘 郎
 田 中 弘 夫
 牧 野 賢 郎
 細 田 滋 郎
 北 村 高 敏
 松 岡 良 高
 山 岡 昌 宏
 置 田 修 己
 白 井 孝 一
 市 川 武 利
 永 田 操 久
 井 上 一 厚
 塩 野 慶 男
 岡 田 慶 司
 米 田 種 邦
 新 田 美 利
 安 部 秀 利

事 務 局 長
 竹 内 康 惠
 平 塚 玲 子
 竹 塚 由 登
 内 藤 信 臣
 重 松 ミチ子
 東 山 由 美子
 松 山 之 宏
 置 田 修 己
 白 井 孝 一
 市 川 武 利
 永 田 操 久
 井 上 一 厚
 塩 野 慶 男
 岡 田 慶 司
 米 田 種 邦
 新 田 美 利
 安 部 秀 利



連 盟 所 在 地

財団法人 愛知県剣道連盟 理事長 山 本 重 夫 事務局 長 竹 味 由 登
 〒453-0044 名古屋市中村区鳥居通り2-41 ウチフジビル2F
 TEL052-481-0093 FAX052-481-0095

尾張地区剣道連盟 理事長 青 山 定 男 事務局 長 寺 澤 将 美
 〒491-0903 一宮市八幡4-1-28 一宮武道館内
 TEL0586-43-1023 FAX同じ

名古屋市剣道連盟 理事長 深 田 正 夫 事務局 長 田 中 弘
 〒454-0022 名古屋市中川区露橋1-31-20 富士美ビル2E
 TEL052-361-8073 FAX同じ

尾南地区剣道連盟 理事長 北 村 豊 事務局 長 伊 藤 勲 次
 〒477-0037 東海市高横須賀町真光寺20番地
 TEL0562-32-0103 FAX同じ

西三河剣道連盟 理事長 林 邦 夫 事務局 長 塩 野 谷 厚
 〒471-0079 豊田市陣中町2-5-7 井上一久方
 TEL0565-33-5646 FAX0565-33-8067

東三河剣道連盟 理事長 富 田 孝 夫 事務局 長 清 水 和 男
 〒443-0043 蒲郡市元町4-1
 TEL0533-67-3232 FAX0533-67-3232

事務局だより

平成十三年度の受験資格・手数料及び学科問題は次のとおりです。

段位審査規程(資格)第3条(2)

受審段位	修業年限	年齢または学年
初 段	一級受有者	中学校2年生以上
二 段	初段受有後1年以上	
三 〃	二 〃 2 〃	
四 〃	三 〃 3 〃	
五 〃	四 〃 4 〃	
六 〃	五 〃 5 〃	
七 〃	六 〃 6 〃	
八 〃	七 〃 10 〃	満46歳以上

施行 平成十二年四月一日

※審査料 据置き、消費税一部県道連負担。
 ※登録料 消費税5%込み
 ※審査日前日までに満七十歳になった方は、登録料半額(学科試験有)
 ※一級受験に際し、愛知県剣道連盟入会金として終身会費五、〇〇〇円を納入しなければなりません。
 *以上の他に事務手数料が若干かかります。

段・級	審査料	登録料
8 ~ 2 級	800円	1,600円
1 級	900円	2,100円
初 段	1,600円	4,300円
式 段	1,800円	5,100円
参 段	2,600円	7,400円
四 段	3,200円	9,200円
五 段	4,000円	13,900円
六 段	9,000円	31,000円
七 段	12,400円	50,100円
八 段	15,800円	72,700円
称 号		
錬 士	17,000円	40,600円
教 士	24,900円	58,600円
範 士		78,750円

剣道学科問題

平成十三年年度、学科試験について

- 一、出題教科書
- 初段の部
 - (1) 剣道の理念
 - (2) 剣道の訓
- 二、三段の部
 - (1) 剣道の理念
 - (2) 剣道の訓
- 四、五段の部
 - (1) 剣道の理念と修練の心構え
 - (2) 剣道の訓
 - (3) 幼少年指導要領
 - (4) 審判法
 - (5) 日本剣道形

二、出題形式

記述式、語句挿入、選択肢(記号で解答)等です。

居合道学科問題

居合教本より出題されます。

杖道学科問題

杖道教本より出題されます。

編集後記

平成十三・十四年度の役員改選等諸般の事情により「観の眼」の発刊が遅れましたことを深くお詫び申し上げます。さて不透明な時代に対して、剣窓の「まど」に欲望社会から崇高な精神の復活と記述されております。まさに剣道人口の減少と云えども人々の心を鍛え気力を養うには剣道が最適と考えます。諸先生方には、その目的に向けて己を鍛え、情熱あるご指導を賜っていることと思っております。会員の皆様からの斬新なアイデア、ご要望ご意見等積極的にご投稿下さいますようお願い申し上げます。なお引き続き新聞への投稿を重ねてお願い申し上げます。

編集委員長
 田中 弘
 中川 治彦
 若松 幸雅
 白石 裕章

中日新聞社

成績の持参またはファックス先は以下の通りです。

- ◇本社 (名古屋市中区3の丸1ノ6ノ1)
FAX 052(201)4331
問い合わせは 電話 052(221)0793
- ◇豊橋支局 (豊橋市八町通3ノ91)
FAX 0532(54)4655
- ◇岡崎支局 (岡崎市東明大寺町16ノ18)
FAX 0564(25)1554
- ◇豊田支局 (豊田市美山町3ノ34ノ34)
FAX 0565(25)1118
- ◇一宮支局 (一宮市大江1ノ13ノ13)
FAX 0586(72)5035
- ◇半田支局 (半田市出口町1ノ45ノ18)
FAX 0569(23)2372
- ◇春日井支局 (春日井市鳥居松町3ノ60)
FAX 0568(81)2797

読売新聞社

FAX 052(211)1085

取材に来てくれることもありますので、
 先ず一報を

広報「観の眼」第二十五号

平成十三年九月二十五日

財団法人 愛知県剣道連盟

〒453-0044

名古屋市中村区鳥居通り二ノ四一

ウチフシビル二階

電話 〇五二〇四八一〇〇九三
FAX 〇五二〇四八一〇〇九五

題字・故竹田弘太郎名誉会長